反乱の灯火

有象無象

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
反乱の灯火

【Nコード】
N0265BA

【作者名】
有象無象

【あらすじ】
ごく普通の高校生である俺は、突然異世界に召喚される。待っていたのは奴隷のような生活だった――――――――――　剣と魔法が存在する世界。腐敗した支配階級、貧困にあえぐ国民。そして――――奴隷たち。彼が見たものは、余りにも衝撃的だった。これは、独りぼっちになった彼が、自由を求めて奮闘するお話

突然の出来事（前書き）

処女作です。完結できるよう精一杯努力していきますので、どうか温かい目で見守って下さい。誤字脱字やおかしな表現等ありましたら、どんどんご指摘をお願いします。

突然の出来事

今日は、一年間でもかなり喜ばしい日だろう。
学生である自分が、毎日の勉強から長期間解放される、その初日。

そう、夏休みだ。

といっても、今日は終業式がある日。教師やら校長やらの長ったるい話をこれからじっと聞いていなければならないことを考えると、憂鬱な気分になる。が、それも午前でおわり、午後からは自由を満喫できることを考えれば、自ずとテンションが上がってくるものだ。

俺は高橋徹夜、１６歳。身長は１６９ｃｍ。高一で、部活には入っていない。なので、別段毎日忙かった訳はないが、それでも夏休みだ。当然高校から課題が出るが、もう既に半分ほど終わっているし、アルバイトの予定も一週間ほどないので、今日の午後からしばらく遊びほうけても問題はない。

さっき部屋で目が覚めて、今は7時。バスの時刻まではまだ時間がある。俺は食パンをトースターに放り込んでから、顔を洗いに洗面台へと向かい、鏡と向かい合う。
今日はあまり寝癖がついていない。目にかかる程度に伸びた黒髪は、珍しく爆発していなかった。
冷水で顔を洗って、再び鏡を見る。映し出された俺の顔は、そこそこ、だと自分では思う。
中学校時代はサッカー部だったからか、だいぶ日に焼けていた。
洗顔を済ませた俺は着替えも終え、目玉焼きを作って、焼きあがった食パンにのせて食べた。そこで、昨日醤油を買っておけば良かっ

たと後悔する。とろりと程よく半熟な目玉には、醤油が合う。パンに乗せて食べても、それは変わらない。

俺は高校に入ってから一人暮らしだ。中学校の時は両親と三人家族で住んでいたが、俺の強い要望により、親も一人暮らしを認めてくれた。今は、親からの仕送りとアルバイトの給料で生活している。
俺の住んでいるマンションは学校からはバスで通わなければならないほど遠いが、コンビニもスーパーもバス停も近くにあるので、何も困ることはない。

とくに持って行く物もなく、いつもよりかなり軽い鞄を持ってマンションの４階にある部屋を出た。エレベーターに乗って１階まで降り、五分ほどでバス亭に着いた。すぐに来たバスに乗り込む。残念ながら座れないようだが、学校まで十数分なので、とくに問題はなかった。学校に到着して少し経ち、チャイムが鳴った後、俺は友人とたわいもない話をしながら、教師の指示に従って体育館へと向かい、そして。

地獄の時間（こうちょうのおはなし）が始まった。

・・・・・・ありえない。なぜこうも長引くんだ？
自分が同じことを二度以上言っていることに気がつかないのか。この耄碌じじいが！
なんて言う訳にはいかないが、それにしても長い。３０分は続いているだろう。
俺の周囲の同級生達は半分ほどが寝ていた。俺も寝ることに決めた。

終業式も終わり、放課後。
俺はまだ家に持って帰っていなかった、勉強に必要な荷物を鞄に詰

めて、学校を出た。
寄り道をすることもなくマンションまで帰ってきた俺は、エレベーターに乗り込む。他に誰もエレベーターに乗ってこないことを確認してから、４階のボタンを押した。扉が閉まり、上昇が始まる。

————————そして、異変が起こった。

その光に気付くのに時間はかからなかった。視界の下、足元。視線を下げた俺が見たのは、エレベーターの床全面が白く光り輝いている光景だった。
驚きの声を上げる間もなく全身が光に包まれ、視界が白く塗りつぶされる。
1階から2階へと上がる途中、エレベーターの中に爆光が満ち、すぐに消えた。

――――――目的の４階に着き、エレベーターの扉が開かれる

そこには誰の姿も無かった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0265ba/

反乱の灯火

2011年12月31日17時51分発行